

## 5 平成19年度の気象等の経過と農業生産への影響

### (1) 気象経過

8月16日に熊谷（埼玉県）で日最高気温40.9℃を記録

平成19年8月16日、熊谷（埼玉県）で、日最高気温40.9℃を観測し、これまでの国内の気象官署及びアメダスで観測した最高気温として、山形（山形県）で昭和8年（1933年）7月25日に記録した40.8℃の記録を74年ぶりに更新するなど、猛暑の年となった。

各期の気象概況は、以下のとおりである。

#### ○ 春期（3～5月）

3月と4月に寒の戻りがあり、5月は高温傾向であった。また、都心での初雪は3月16日で記録的な暖冬を反映し、東京で観測史上（明治9年以来）一番遅い初雪となり、平年より73日遅く、これまでの最も遅い記録の2月10日（昭和35年）を1か月以上更新した。関東甲信地方の平均気温は平年差で0.5℃高く、降水量は平年比85%、日照時間は平年比111%となった。

#### ○ 夏期（6月～8月）

梅雨入りが遅れ、6月は高温・小雨・多照であった。7月は梅雨前線の活動が活発で、低温・多雨・寡照<sup>かしよう</sup>であった。梅雨入りは6月22日ごろで、平年の6月8日ごろに比べかなり遅く、梅雨明けは8月1日ごろで、平年の7月20日ごろに比べかなり遅くなった。8月は太平洋高気圧の勢力が強く、8月16日に熊谷（埼玉県）で、日最高気温40.9℃を観測し、これまでの国内の気象官署及びアメダスで観測した最高気温として、山形（山形県）で昭和8年（1933年）に記録した40.8℃の記録を74年ぶりに更新するなど、猛暑となった。関東甲信地方の平均気温は平年差で0.6℃高く、降水量は平年比89%、日照時間は平年比108%となった。

#### ○ 秋期（9月～11月）

9月は松本（長野県）で月平均気温が平年差で3.2℃高くなるなど太平洋高気圧の影響で記録的な高温が続いた。また、台風第9号が関東地方を縦断し、各地で大雨による被害をもたらした。10月後半以降は時折寒気が南下するようになり、寒暖の変化が大きくなった。11月前半は移動性高気圧に覆われ、晴れて気温の高い日が多く、後半は大陸からの冷たい高気圧に覆われて晴れたものの気温は低い日が多かった。関東甲信地方の平均気温は平年より1.0℃高く、降水量は平年比106%、日照時間は平年比100%となった。

#### ○ 冬期（12月～2月）

12月～1月上旬までは冬型の気圧配置となる日は少なく数日の周期で低気圧が通過した。1月中旬から2月前半にかけては、シベリア高気圧の影響により平年と比べて曇りや雨、雪の日が多かった。2月後半以降は、冬型の気圧配置が続き、2月23～24日に発達

## 第2部 関東食料・農業・農村の動向

した低気圧の通過に伴い、全国各地で強風が吹き荒れ、関東農政局管内でもビニールハウスを中心に農業施設（注）への被害が発生した。この強風の影響で、栃木県日光市では、特別天然記念物の杉並木でも倒木が発生するなど大きな被害が発生した。関東甲信地方の平均気温は平年差0℃、降水量は平年比100%、日照時間は平年比103%となった。

（注）「農業施設」とは、生産にかかる温室や畜舎、穀類の乾燥調整施設、生産物加工場や貯蔵庫、集出荷場及び農業機械格納庫など、各種機械・設備を備えて生産機能の整った施設をいう。

### （2）被害状況

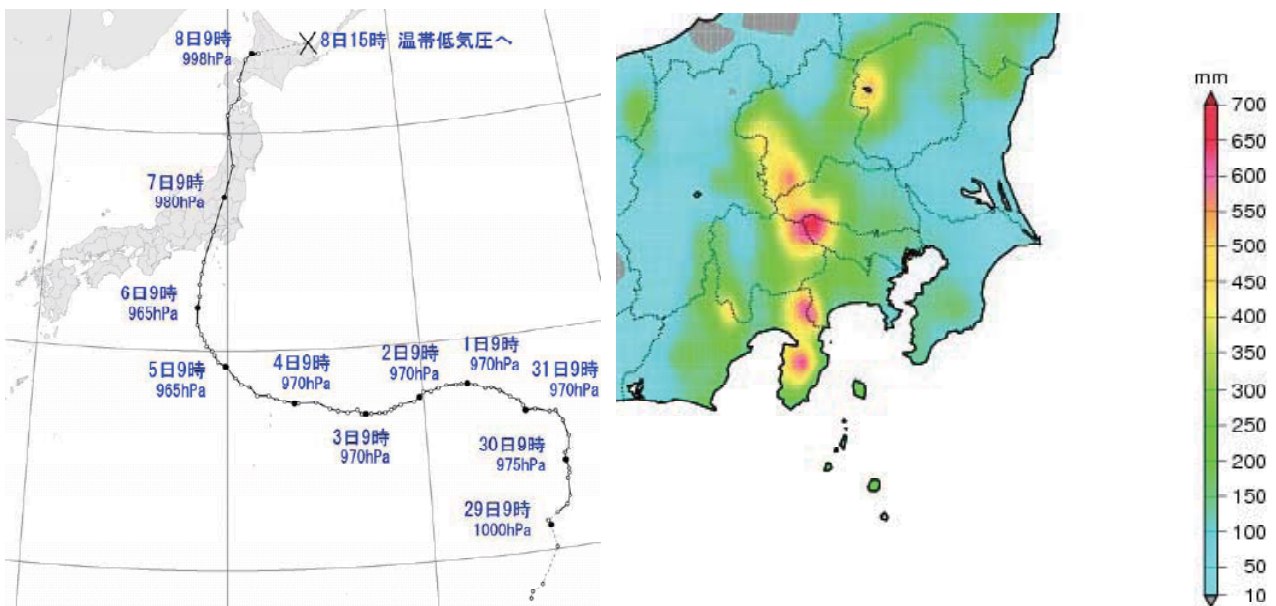
#### 新潟県中越沖地震が発生。長野県飯綱町芋川で震度6強を観測

#### ○ 降ひょう

降ひょうによる被害は、主に4月下旬から6月上旬、8月上旬に発生した。特に5月10日には、北関東広域で果樹（なし）を中心に被害が発生し、農作物被害額は約8億9千万円となった。

#### ○ 台風

19年の台風発生数は24個（平年数26.7個）、日本に上陸した台風は3個（平年数2.6個）で、発生数、上陸数ともほぼ平年並みであった。関東地方へは、台風第4号、9号、20号が接近し、台風第9号については、関東地方を縦断し、降り始めの9月5日0時から7日24時までの総降水量が、伊豆半島や関東の山地の一部で500mmを超え、静岡県伊豆市湯ヶ島で690mm、東京都奥多摩町小河内で683mm、神奈川県箱根町箱根で651mmを記録した。日降水量は、静岡県伊豆市湯ヶ島で595mm、静岡県御殿場市御殿場で524mmを記録し、9月として観測開始以来の第1位となった所があるなど、関東各地で大雨等による被害をもたらした。管内における第9号による農作物被害は約13億5千万円となった。



東京管区气象台発表「平成19年9月台風第9号に関する気象速報」より

### ○ 新潟県中越沖地震

19年7月16日午前10時13分ころ、新潟県上中越沖の深さ約17kmを震源とするマグニチュード6.8（最大震度6強）の地震が発生した。関東管内では長野県飯綱町芋川で震度6強を観測したことを受けて、農業災害情報等の迅速な把握及び災害対策の円滑な実施を図るため、関東農政局長を本部長とする「関東農政局災害対策本部」を設け災害対策を行った。

なお、長野県における農作物等被害は、きのこ施設への被害を中心に約3億1千万円となった。



ぶなしめじ栽培施設におけるびん倒壊（長野県飯山市外様地区）

### ○ 暴風雪

20年2月23日朝、日本海にあった低気圧が発達しながら東進し、23日夜は東北北部を通過し、三陸沖に進んだことから、日本付近は冬型の気圧配置が強まり、強い寒気が流れ込んだ。この影響で2月23日～24日にかけて、山沿いの広い範囲で大雪となり、陸上で20～25メートル、海上で25～28メートルの暴風や暴風雪となり、最大瞬間風速は栃木県宇都宮市で29.2メートル、栃木県日光市で28.9メートルを観測するなど各地で大荒れの天気となった。関東管内ではビニールハウスを中心に農業施設への被害が発生し、約2億2千万円の被害となった。この強風の影響で、栃木県日光市では、特別天然記念物の杉並木で倒木が発生するなど大きな被害となった。

## 第2部 関東食料・農業・農村の動向

### (3) 農地・農業用施設の災害の状況

19年災害による農地・農業用施設の総被害額は約39億円

19年における管内の農地・農業用施設（注）にかかわる災害箇所は2,437か所、総被害額は約39億円で、過去5か年の平均被害額と比べて15%減、前年比28%減で、都県別被害額は表Ⅱ-5-1のとおりである。

全国での農地・農業用施設の総被害額は約531億円で、過去5か年の平均被害額に対して5割となっており、全国的にも平均額を下回っている状況である。

管内の被害額を発生時期別にみると、7月の台風第4号によるものが約11億円、9月の台風第9号によるものが約26億円、その他の災害によるものが約2億円であった。

全体被害額の約95%が台風による災害であり、被害額の内訳は、農地災害約11億円、農業用施設災害約28億円であった。

なお、6月11日～7月17日の梅雨前線豪雨及び台風第4号、8月2～4日の台風第5号、平成19年能登半島地震による石川県鳳珠郡能登町等の区域にかかわる災害、平成19年新潟県中越沖地震による新潟県長岡市等の区域にかかわる災害に対して、19年災害の「激甚災害<sup>げきじんさいがい</sup>に対処するための特別の財政援助等に関する法律」の指定が行われたことを受けて、農地・農業用施設の災害復旧事業にかかわる補助率のかさ上げ措置を講じた。

(注)「農地」とは、田・畑等、耕作の用に供される土地をいう。

「農業用施設」とは、ため池・頭首工・水路・農道・揚水機・堤防・橋梁・農地保全施設をいう。

表Ⅱ-5-1 19年災害による農地・農業用施設の都県別被害額

(単位：百万円)

都 県 名	箇 所 数	被 害 額 (百万円)
茨 城 県	14	30
栃 木 県	18	187
群 馬 県	204	509
埼 玉 県	1	11
千 葉 県	63	182
東 京 都	82	246
神 奈 川 県	9	58
山 梨 県	264	383
長 野 県	1,525	1,722
静 岡 県	257	611
管 内 (過去5か年平均)	2,437 (1,686)	3,939 (4,616)

資料：関東農政局調べ

- 「台風第4号」の豪雨により農道の路肩法面が崩落（千葉県勝浦市）

【被災状況】



【復旧後】



- 「3月豪雨」（平成19年3月24日～25日発生）により水田の畦畔が崩落（長野県松川町）

【被災状況】



【復旧後】

